



平成25年度

第9回みみらんどセミナー

ことばシリーズ③

- ☆ 実施日時 ☆ 平成25年8月28日(水) 13:00~14:30
- ☆ テーマ ☆ 「実践!家庭でのことば育て~人工内耳の子ども~」
- ☆ 講師 ☆ 福島県総合療育センター 言語聴覚士 原田 綾 様

第9回みみらんどセミナーの概要をご報告いたします。

ことばは、「わかることば」「言えることば」「コミュニケーション」の3本柱に分けられます。「子供が話をしない・・・」と、言えることばに注目しがちですが、ことばにはこの3側面があることや、「わかることば」が先で「言えることば」が後とい

う、ことばの発達の大原則があることを知っておくことが大切です。「わかることば」が増えてくることが「言えることば」につながっていきます。まず、「わかることば」を増やしていくようにしましょう。例えば、「バナナ」と声に出して言えるようにするためには、「バナナは黄色い」のようにバナナについて知っていることや、実際に見たり触ったり食べたりする経験を重ねて「バナナ」とわかることを増やしていくことが大切であるということです。

両親がやっていることや示してくれることが、子供にとってよいモデルになります。両親が最大のモデルです。また、学校でやっていることを反復するのが家庭です。生活リズムや基礎を作るのも家庭です。子供にとって、家庭での両親の関わりは重要です。

では、家庭でどのようなことを大切にしていこうとよいのでしょうか？

「経験を生かした先行体験」と「反復練習」を大切にしていきましょう。例えば、親子で買い物に行くときには、買い物に行く前に、親子でたくさん話をしながらお買い物メモを作ったり、買い物の途中では、物の名前や物の数え方、産地など様々なことに注目してみたり、子供が目に見ているところを言語化して伝えてあげたりすることが大切です。そして、これらの体験で得た知識を使える知識にするために家に帰ってきてから、親子の会話の中で、繰り返し確認したり使ったりと反復練習をしましょう。子供の興味をもったところをきっかけにして、ことばをひろげていくことも大切です。絵本を使って親子で楽しくやりとりすることも、ことばの勉強になります。

脳の可塑性のお話もありました。きこえを担う脳の発達を促すには目安となる時期があります。音声言語習得における臨界期は通常4~5歳と言われています。6歳以降は急速に減少してしまいます。この時点で、脳みそが視覚を処理する脳みそに変わっているお子さんであれば、音が入ってきても言語として処理するのが難しくなります。だからこそ、早期発見、早期療育が大切になってきます。

参加者から、「関わり方の具体的な話が多くあり、とても勉強になった。すぐに生かしていきたい」との感想をいただきました。

